



寶八子に勝る物無きの辨

和装本

129
1945



山口
口 9
巻 1945

室ハ子に務る物なきの辨

明治四十三年十二月
山田市郎 大書



人父母の生む所をばむも生むもハ神仏の性授け也故

たといふも子海なりても生むも人ありて是有る多しと又

母の心子任まきやあり既に神佛より人よ人を

生むはて生むれば生人と生む程の天福ハ必自ありて是

人病あり又ハ悪事と為すり又ハ怠りて家業を廢る小

罪ざれば身をばむふわぶの事ハある事あり故に生む

たるに我子ありてとてそのまゝに授けしは亦其の是と云ふ

養ひ育つるに天道小徳ありて我ら小徳窮しとて得あり

親に我子の多きとて厭ひて他人の子を或は捨子とて捨て

墮胎し極悪の親に赤子を殺すもあつとて是は極悪

若し不業なり又とてあつて育てたるが不孝の悪人とて殺

多るが孝親の善人ならんも知る處からは又其の罪とて流

育てたるは福ありて死に終りて猶分る事なり年老る子のあ

きと後悔するもあつて又多の子を育てたるもあつて親も

傍り富貴となり栄えを親兄弟まで小及ぶ人もある

存もかくもも子女なく兄弟なきは心細き事なり親

たるもの子と育てたるは法とてつらとて思はれり

如き子を育て育て善人の人情より即ち道小徳ありて

ると此地の悪風も習ひて貧困も苦し小兒を遊道も失

ふ八禽獸も若し人なり人の子の母を天の賜とて

第一身ありとも力の及ぶべき如く天地好生の徳を以て
 一と育めし事一ありは周竊のとも母子たふ病も如重
 乳食不足ほんぞ飢渴も至せども他人の乳を求るの事だて
 なく終身餘死をまゐり終るあり元より無智の小児も一と
 形のみく若くもを受るはえも忍びざるものあり未介も
 困苦も迫るも及くはたを給よのらざるより自招くも終るなり
 無智の小児は自招くも何れは實の憐れむべきものなり未終

とあくる子とを養はるるはどき実あるなりはあはれむべき一終るは
 日くの憐れもあはれむる程の程実の者見多くありそ其と病患
 おもて何をすもおも金銭の助もこれに如何もすもすもあはれ
 終るの顛倒して終る子を去りて或は害一或は餓死もあはる
 そのあり抑天地の間も子に比ぶべき靈宝および非た体の
 助宝のいづれも秘藏をすもとどきもそ変化於て確一子孫
 におよそ承久の靈宝も一そ体も嫁一或は他國も住居して

國家の活札ごうかぬぢらんぬぢももととどもども親子おやこ見み心こころをを同おなじじにするする時とき心こころ強つよ

くくぐぐ—故ゆへにに邦くに五ご八はち人民じんみんのの長ながきをを以もつてて富とみ強つよのの才さいつつとともも

いいくく又また善ぜん事じ—多おほくく中ちゆう人にんのの命いのちをを助たすけけるる後のち大おほ若わか功こう徳とくははあるあるま

ト—又また悪あくくく多おほくく中ちゆう人にんをを殺ころすすれれどど大おほ悪あくなるなる事ことははあるあるはは

然しかるるにに極ごく悪あくきき悪あくのの者もの人ひとのの子ことと若わかいい金かねををとりとりてて居ゐるるはは殺ころ

人ひとをを殺ころすす—甚おほくくままいいににままをを居ゐるるはは極ごく悪あくきき極ごく悪あくにに逢あはあすす途とち中ちゆう子こ

てて亦また然しかるるををぎぎととりり標めし—とと若わかいい月つきにに控かまへへるるもも有あるるはは

其その外ほか種しゆ々々談だんあるある奸かん計けいとと害がい—後のち小せう重じゆう罪ざいよよ初はつまま—

ももああららうう—法ほう実じつをを命いのちにに金かね銀ぎんよよをを得えられられぬぬははななららずず—花はなももふ

後のち二に三さんのの金かねをを食くんん為なすす—罪つみあるあるはは若わかいい小せう兒にをを殺ころすすはは

悪あく事じ—多おほくく中ちゆう人にんのの如ごとくく大おほ悪あくははあるあるまま—虎こ狼ろうよよ同おなじじ

ままいいににああららうう—花はなをを食くひひのの幸さい福ふくあるあるままははけけはは

東叡山一品親王様とういせんしんおうさま在あるるまま右みぎ体ていのの事こと—あるあるままをを在あるるまま為なすすはは
恐おそ多おほくくもも深ふかくく在あるるまま為なすす御ご慈じ悲ひのの録ろく—三さん重じゆう罪ざいとと救すくひひ

まのんちふ御心をた為痛格別成御憐慈ふく小児非
業の死を助ふゆふ為よを地所又ハ養育の費助ふる
た為惠濟幼院と云ふを造立しゆゆふを思ふのわ
まがここの御まうり是を弘く世の人よ告げ知れんを
悲ある人の志此方け費財を助けんを養育の道の
永く廣く約き多く非業の児を救助するにゆふ必
其んくの子孫繁栄の基とあるべし。○富貴たる人深

花ごりの満ふ大金とも費まきり多し。一時耳目口舌を存たもぶ勢
人より其心を慈仁の道よ向け世の為人のくあふたをんよ
必身のくあ子孫の満よく積善の餘慶を運の繁栄疑ふ
るべし。○富貴の方く多くの鳥を飼養する樂しむるは
其性を苦しむる故ふを存よ。てハ金銀の籠の中
在りやうとくも竹を樂しむる人必其を怨む念あらし
是を救つ時うその性のみく自由よ山野林園よ飛翔する

喜び大なるべし 幸くば 従来餉の所の名を放つて其勢と

以て貧兒の撫養を救ふ事 一 云り 放つ所の名を其所の實

児共小振若く樂の恩を蒙りおと其をかくるにあはるべし

て至仁の善道あらひ行はるべし 一 是れ此の向け方

よよりて身の樂を右とたし 幸くするの事あり

子室ふ何うゆきしん白銀も

六つとも正も其のうら

あはれ

